令和4年9月21日 No. 35 文章 核長 颜久保一男

外見だけでなく…

運動会直前のため、運動会のことを書かなければいけないようにも思いますが、 運動会情報は本校ホームページ【学校のひろば】をご覧ください。

一昔前は、髪を染めたり、派手な服装をしたりしていると、あまりいい印象をもってもらえなかったと思いますが、今では、だいぶ受ける印象が変わったかなと思います。



今は「服装は何でもありだな」と感じますが、半袖の服の下に長袖を着るスタイルが理解できません。かくいう私は大学のころは、髪にはパーマをかけ、ヒゲをのばし、という姿をしていました。 父や母からは「ちったぁ『みだましい』格好をしろ」とよく言われていました。

※甲州弁「みだましい」は、きちんとしたというような意味です。

さて,こんなコラムがありました。

地下鉄の中で。

座席の斜め前で、2人の女子高生が大声でおしゃべりをしていた。 髪を染めて、付けまつげをしているし、派手な化粧もしているし。 周りの人たちもそのおしゃべりに顔をしかめていた。

「親の顔が見てみたいものだ」と思った。



うとうとしていると突然,騒がしくなった。向かいに座っていた女子中学生が吐いてしまったのだ。 その子は真っ青な顔をしている。床には嘔吐物が広がっている。彼女の両脇に座っていた人や立って いた人たちは身を引いて逃げるようにしてよけた。

そのとき、おしゃべりをしていた2人の女子高生が、カバンからハンドタオルとティッシュペーパーを取り出して床を拭き始めた。それも笑いながら楽しそうに。サッサッと手際よく片付けていった。「このくらいまで拭けばいかなぁ」「いいって、いいって」

さらに。きれいになったあとでI人が「ちょっと臭うね」と言い,カバンから制汗スプレーを取り出 してシューとひと吹き。「これでいいじゃん」車内にいい香りが漂った。

2人は何もなかったかのように再びおしゃべりを始めた。ふと見ると、周りに迷惑をかけてしまった中学生が申し訳なさそうな顔をしていた。彼女たちのドライで淡々とした行動が、中学生に心の負担をかけさせないための気遣いであるような気がした。

心の中で拍手をした。人を見た目で判断してはいけないとあらためて反省した。

「2人の親御さんに報告してあげたい」と思った。

電車内で大きな声で話すことは、マナーに反することですが、中学生が吐いてしまったとき、周りの大人が何もしないで、ただよけている中で、2人の女子高校生のとった行動はとてもステキです。見た目はイマドキの女子高生かもしれませんが、やさしい心遣いと行動のできる高校生でした。

「人は外見ではない」「中身が大事」などと言われます。しかし、初対面の人と出会うときは、相手のこと が分かりませんので、まずは外見から受ける印象で判断されます。

アメリカの心理学者のアルバート・メラビンによると、相手を判断する要素は

○身だしなみやしぐさ、表情などの見た目

○声の質やイントネーションなど

○言葉づかいや話の内容など

7 %

55%

38%



なのだそうです。見た目が大事ということがわかるデータです。

初対面の相手と出会って, 外見で判断する時間は2秒とも5秒とも言われています。出会った瞬間の印象で 「やさしい感じの人」「こわそうな人」「清潔感のある人」「ちょっと清潔ではないかも」などの判断がされる ということです。その一瞬で判断した印象はかなり長い間残り、その印象が払拭されるには実に2年もかかる そうです。最初に会ったときの印象が強く残ってしまうと、そのあと印象が違ったとしても、今日は違ったけ ど、この人はあのときこうだったと、最初の印象に戻ってしまうそうです。

外見と内面が違うという人は多くいます。中でも、身体的・精神的に様々なハンディキャップを抱えている 人にとっては、外見だけで判断されてしまうことは辛いことになります。外見が与える印象は、前述のように、 誰にでもあるのですが、それだけにとらわれることなく、その人自身を理解することが大切なことです。

「この子はこういう子だ」という決めつけで子どもを見ることは危険なことです。子どもにとってのいちば んの理解者は親です。

- 一昨年度、昨年度の校長通信の一部を再掲載します。
- …昨年度校長通信 No.37「平等と公平」からの再掲です。

この夏(令和3年)パラリンピックが日本で開催されたこと、日本の多くの人が見たこと は、様々な障害をもつ人との「共生」について考えるための大きな意味をもつと感じま した。出場した選手が、努力に努力を重ねスポーツをする姿には、感動を超えた「尊敬」 の気持ちを抱きました。



…令和 2 年度校長通信 No. 4 6 「印象」からの再掲です。(一部修正してあります)

13年前(今では15年前)のことです。八田小学校に異動しました。転任1年目ですが、6年担任になりました。



新任式で一言あいさつをし、始業式で担任が発表されたのですが…、初めて出会ったのにも 関わらず、担任する6年生のクラスの女子の多数が泣いていました…。見た目の印象(40代 のオジサンです)でしょうか、5年のときの担任との別れが悲しかったのでしょうか、ミニバス をやっている子からの偏った変な情報があったのでしょうか…。非常にマイナスからの出発

になりましたが、授業やクラスでの生活がはじまると、授業がよくわかる・楽しい、子どもに本気で向き合っ てくれると、子どもたちからも保護者からも信頼され、私自身もとても楽しく担任ができ、1年間しか担任で きなかったのですが、今でも強く印象に残るクラスになったということがありました。

…同じく、令和2年度校長通信 No.46「印象」からの再掲です。

はじめにいい印象をもってもらうことは大切です。しかし、はじめにいい印象をもってもらえなかったとして も,大切なのは,「自分らしく」過ごしていくことだと私は思っています。自分を見つめて,自分にできること は何かを考え、自分の苦手な部分や嫌な部分から逃げず、もちろん得意なことは生かしていく、「自分らしさ」

を求めていくことだと考えます。特別なことをするということではありません。当たり 前のことを積み重ねていくことで,たとえ,はじめはいい印象をもって受け入れられな かったとしても、自分なりの特別な印象をもってもらえると思っています。

